



町人婦人語

三



口遠⁹

1733

9





町人囊卷三



或人の曰町人れ詞ことばわらふ様ようなりなりとふはれおじ



さきものなりといひしあふ都みやこの詞ことばよりい生なまつき
ふは國郷くにきやう談だんをて國くによれたゆふは都みやこの詞ことばと
かこと多おほしつあうの詞ことばなりとて笑わらふやうに
神代かみよの遺風いふうに結むすぶ外ほか都みやこは然しかうとあはる
多おほしやうやうとて詞ことば具ぐつあへといひ物もの
し人ひと者ものそつとあはれけあふ事ことあへん一いつ編へんみ
拵もちづゝに安やすふいゆふあふはれい物ものやう
ふかき付つきあへんとて人ひとを結むすとてうは

をく来たの〜

あむい 母^は又^も阿^あ妣^ひなるべ^し妣^はの母^はなる

いの餘^い音^{えん}いつ^てなる^は故^{ゆゑ}にあむい^{といふ}なり

て^は又^{また}を^は字^じ活^{くわ}拾^{しつ}遺^い物^{ぶつ}語^ごより^{なり}なり

とそと五^ご音^{えん}相^あ通^{つう}ど^とて^は則^{すなは}ち^{なり}なり

て^はや^うむ^むなり^は故^{ゆゑ}に^{なり}家^けの^{なり}なり

ハ年^{ねん}を^はけ^はる^はもの^{なり}を^は親^{おや}を^はなり^{なり}亭^{てい}長^{ちやう}

なり^{なり}

む^むなり^{なり}足^{あし}と^は破^や茅^{ぼう}なる^はなり^{なり}破^や書^{しよ}乃^{なり}中^{ちゆう}

母^は茅^{ぼう}乃^{なり}始^{はじめ}と^は土^ど中^{ちゆう}より^{なり}生^はじ^{なり}る^はもの^{なり}を^は破^や

茅^{ぼう}と^はなり^{なり}る^はもの^{なり}の^{なり}書^{しよ}れ^{なり}なる^はなり

か^かと^は孫^{そん}て^はん^{なり}なり

いの^{なり}後^ご思^しと^はなり^{なり}て^は五十^{いそ}日^{にち}の^{なり}内^{うち}なる^はもの

を^はなり^{なり}延^{えん}生^{せい}より^{なり}五十^{いそ}日^{にち}なり^{なり}五十^{いそ}日^{にち}の^{なり}後^ご

と^は後^ごなる^は源^{げん}氏^し物^{ぶつ}語^ごなる^はなり

げ^げなり^{なり}外^け科^かと^はなり^{なり}外^け症^{しやう}と^は書^{しよ}なり^{なり}字^じ林^{りん}

拾^{しつ}葉^{えふ}より^{なり}なり

か^かは^はなり^{なり}員^{いん}と^はなり^{なり}なり^{なり}なり

を^はなり^{なり}なり^{なり}なり^{なり}なり^{なり}なり

なり^{なり}

ありてい 少くもをいふゆゑよりや
あるちかきものなりとあらうとせしめ
あるありといふ名はよきとせしめたり
ある 禪といふ名は是れわれにありといふこと
これ子個なる一物の名を禪あるものとす
ひさう 不便なるは又無惑なるべし字法
いものほう
遺物語すも是なり
らるる 物の目録は付来するを合物たる
ごとく字法拾遺物語よりなり
右の如きは多うとて盡く記さふことは

誤治の字誤治の字に誤るもの也といふ
但るといふ神代より和語して日本紀に
鍛部れ字とありて訓どるは後世結句誤
こかざる物なりといふるは鍛治乃二字
と誤るにありに鍛治乃二字に鍛の字と
治の鑄物師の事なり

甲曹 日本書に甲とふといふ曹とふ
といふといふ甲といふ曹といふは
といふといふものなり

者 ぶといふあり日本書に甲の字といふ

誤なりといふの字といふ猪といふもの也十二
乃亥とぬける也猪の字も誤なりといふ
ぬこの物名なりといふ

鴨

字書と考つるふありける也家鷺をい
とるといふ又家鷺の字をいふ野鷺といふ

は能なりといふといふ日本のありといふ
家鷺なる字をいふといふ鳥の字とあり

坊主

三髪のもをいふといふ誤なり僧の一

坊主といふものなりといふ人といふは
すて剃髪するといふ坊主といふものなり

市坊^{いちばう}人を焼^やの也いふ一死人のとりあふ
い傍^{そば}家^けより皆執^{しやく}行^{ぎやう}より其導師^{そどうし}など貴^き
て市坊^{いちばう}といふもの也近代俗^{とんじん}人の賃^{ちん}銀^{ぎん}と
りて死人を焼^やて市坊^{いちばう}といふといひ
ふといひ也市坊^{いちばう}といひ貴^きくおんがうとい
いといふくゆふ又あう

右の如^{ごと}けをいふかぞへ盡^つくがうあうて知
て詞^{こと}人^{ひと}事^{こと}の用^{もち}を達^{たつ}とるゝあふれいあう
誤^ごちりたおよりいふゝるおい其候^{そのまう}をせよ
あういて害^{がい}かへおよりて改^{かへ}る事^{こと}あういふ

し可^しあらん

或^{ある}人のいふ富貴^{ふうき}といふ町人百姓^{ちやうじんひやくしやう}のう人をいふ
と富^ふい財寶^{さいほう}ありありい貴^きい官位^{くわんゐ}をいふ
町人百姓^{ちやうじんひやくしやう}金銀財宝^{きんぎんさいほう}貯^{たくわ}へりて富^ふまの人といふ
誤^ごちりて町人百姓^{ちやうじんひやくしやう}無官^{むくわん}無位^{むゐ}の者何種^{なんしゆ}財宝^{さいほう}の貯^{たくわ}
ありて富^ふまといふいふに貴^きれ字^じのいふ辨^{はん}（知^し
べ）も様^{よう}を般^{はん}たふのまれ字^じとい各別^{かくべつ}也我家^{わがや}乃^{なり}
圓白^{えんぱく}とやんつ事^{こと}あれいふのが家内^{けだい}とい何れ
外^{そと}はありて我^{われ}い富^ふまありあういふいおうい
いれい富^ふまの身^みありとい得^えて過^か美^み榮^{えい}耀^{よう}乃^{なり}

凡^{たゞ}解^とをたぬものむ天^{あま}乃^{すなは}惡^{わる}じ處^{ところ}なりを角^{かく}金^{きん}銀^{ぎん}
と人^{ひと}財^{さい}物^{ぶつ}をいふ人^{ひと}のふるものなりてもおののけ也^{なり}
とを解^とするもの也町人百姓財宝^{さいほう}なりものといふ富^ふ限^{げん}
者^{もの}又^{また}いふものなりて有^う徳^{とく}といふ根^{こん}本^{ぽん}乃^{すなは}徳^{とく}有^う
人の事也町人百姓の有徳^{とく}利徳^{りとく}の徳也有徳^{とく}人^{ひと}
といふ道徳^{だうとく}は徳^{とく}なりて唯^{ただ}いふものなりて不^ふ然^{ぜん}といふれ
ある人或^{ある}學者^{がくしや}者^{もの}は回^{くわい}て云^い地獄^{ぢごく}極^{ごく}楽^{らく}なり有^うと云^いて徳^{とく}
や又^{また}いふことありて徳^{とく}は徳^{とく}なりや學者^{がくしや}者^{もの}は云^い有^うと云^い
ふ徳^{とく}は徳^{とく}なりといふは町人以下^{以下}に教^{きやう}とされいふ根^{こん}
なることなりやすし聖^{せい}人^{にん}也^{なり}もあつていふは万^{まん}民^{みん}

を盡^{じん}く教^{きやう}て道^{だう}と云^いふ徳^{とく}は徳^{とく}なりと民^{みん}をば
依^よちていふことありて況^{きやう}や事^じ代^{だい}の人^{ひと}の邪^{よこしま}欲^{よく}驕^{けう}慢^{まん}
多^{おほ}く地獄^{ぢごく}極^{ごく}楽^{らく}なり後^ご悔^{かい}なりありと云^いふことありて也^{なり}
いふは聖^{せい}徳^{とく}なり我^{われ}國^{くに}は佛^{ぶつ}はと云^いふ徳^{とく}は徳^{とく}なりと此^{こゝ}
未^み來^{らい}の祝^{しゆ}と云^いふ万^{まん}民^{みん}と云^いふ戒^{かい}めなりて天下^{てんか}と
云^いふは神道^{しんどう}なりと云^いふことありて云^いふ徳^{とく}は徳^{とく}なりと云^いふことありて
憲^{けん}法^{ぽう}の中^{なかつ}に佛^{ぶつ}はと云^いふことありて王^{おう}はの外^け護^ごなりと
云^いふことありて也王^{おう}は則^{すなは}ち神道^{しんどう}なりといふことありて
て後^ごありて云^いふことありて魂^{こん}魄^{ぱく}の初^{はつ}末^{まつ}と云^いふ
は云^いふことありていふ愚^ぐ蒙^{もう}乃^{すなは}ち町人百姓^{ちやうじんひやくしやう}の思^{おも}ひ也^{なり}

とつりたり其おろろゝん常^{じょう}に万民じあす
おろん天下を平^{へい}れ基^{もと}ろん此^{この}おろ地獄極樂死
後^{のち}有^あろ人^{ひと}よい地^ちかありとあをてあ^あれ
事^{こと}なりあ^あれ小^こ今^け代の出家いれ市^{いち}い^いる
き道理と説^{せつ}さ^さをい^いる^るを^をた^たぬ町人百
姓^{せい}は教^{くわ}て地獄死後小^こあ^あな^ない^いま^まろ^ろる
み今^け代のあ^あれ女^に人^{ひと}童子^{どうし}も地獄の沙汰^{さた}を
お^おろ^ろる^る百^{ひゃく}千^{せん}人^{にん}の中^{なか}に信^{しん}實^{じつ}あ^あろとあ^あ人
い稀^{まれ}也聖徳^{せいとく}あ^あれ王^{わう}は乃^{すなは}ち^ち信^{しん}實^{じつ}あ^あろとあ^あ人
ふ^ふろ^ろあ^あへ^へま^まや^やい^いる^るや結^{くわ}白^{はく}事^{こと}代^{だい}はあ^あろと王^{わう}は乃^{すなは}ち

害^{がい}とあ^あれ^る事^{こと}多^{おほ}き^きよう^{よう}と平^{へい}記^きの評判^{ひやうはん}れ中^{ちゆう}に
記^きよりあ^あれ^る彼^か書^{しよ}と考^{かう}あ^あれ^る町^{ちやう}人^{にん}百^{ひゃく}姓^{せい}とあ^あれ
少^{すく}し道理^{だうり}を^をあ^あれ^る人^{にん}を地獄^{じやく}者^{しや}とあ^あれ
あ^あれ^る地獄^{じやく}あ^あれ^るとあ^あれ^る不^ふ義^ぎとあ^あれ^るへ^へま^ま理^りは
極^{ごく}樂^{らく}あ^あれ^るとあ^あれ^る安^{あん}樂^{らく}なるあ^あれ^る望^{ぼう}
あ^あれ^る人^{にん}あ^あれ^る其^{その}人^{にん}のあ^あれ^る地獄^{じやく}天^{てん}堂^{だう}乃^{すなは}ち
法^{はふ}入^にるあ^あれ^る或^{ある}侍^{しやく}病^{びやう}死^しは陰^{いん}あ^あれ^る時^{とき}出家^{しやけ}のあ^あれ^る
あ^あれ^る年^{ねん}生^{せい}終^{しゆう}ま^まとあ^あれ^る後^{のち}い^いれ^る性^{しやう}生^{せい}報^{ほう}なる
へ^へれ^る一^{いつ}念^{ねん}を^を信^{しん}とあ^あれ^る侍^{しやく}記^きよりて
あ^あれ^るい^いる^る成^{じやう}あ^あれ^る俗^{しやく}のあ^あれ^る七^{しち}寶^{ほう}を^を地^ちろ^ろあ^あれ^る

飲食衣服あつれ求めよあつて寒く熱く常
小安樂なるをたれ侍の云うれい公家上臈女人
希まうぬいも足不具れ病者あていさうなるを
よほ居してあつて我勇士の家おされて雨は
い風ふ柳さうか府い石松松き松を移る
平生此を失するなく款と亡びし松松君
盡さんうとるわうあていさ松松と忘るう
と何ぞさうなるよ安樂して優くと目をお
くんやあつての極樂世界やと頭とらうてい
とらや又或町人出あていさ人死してせられ

か事い實う出あていさの云慥に有事あり町人の云われ
死をい何よりせられんや傍の云貴方い佛はれ松松
あていさ常い熱心あて正直なり又人間よ生
まほひるい今一寄富限なる人う又い或あてい
あひなん町人の云ぬかさけるあていさ今我身
乃分派して人家用者属多く事繁くお苦
子孫のせううていより悔いんや今一寄富限
身とあていさく本心とあていさ事ありんや又
或あていさるうれ迷惑なり一生を思ふお
うとけいんていさのいさめれく名利を第一やて

人の目益せりといふ者も、まじき事なり。と云ふこと
せん。よりいふは、町人こそ樂たのしみけれ。一は、昔々秘法
と云ふて、秘法はさうある様ようのもね。よけれ。やな
事秘法と云ふ。口惜くしやうき。此中へい。い。まの。い。い。ま。
と云ふ。て。道。此。あ。づ。く。ま。る。成。一。と。い。い。と。う。
か。や。あ。る。得。公。の。人。こ。よ。い。地。獄。極。樂。の。教。と。い。ふ。悪
行。を。い。ふ。と。い。う。い。ま。ま。て。ふ。武。士。と。武。士。の。こ。よ。い。
町。人。と。町。人。の。こ。よ。い。と。い。ふ。明。智。の。天。下。三。日。と。い。ふ。い。
より。い。鶴。よ。せ。れ。て。千。年。と。い。ふ。い。れ。ん。と。い。ふ。あ。ま。り。
な。れ。と。諸。君。

或人の曰今代町人百姓の中に持もつての藝術者ありて各
其道とて、一人は教しやうずは、或は秘密ひみつ口傳くでんの大事と
号なづけて、他人を誑あやましめ、其はむい得えるべき事也。
又口訣くけつ秘密ひみつは、四のふわり、實秘じつひ隱秘いんひ、利秘りひ、妄秘もうひ、
字同の漢かん理り秘ひ、公こうれ人の覺さくる、あはれ、徳とく秘ひ、うさね
功こうを積つむる、何なん秘ひとて、傳でんする、實秘じつひより、れり、罕まれに
利りと命いのちと、仁にと公こうのふい、一貫いつくわんと曾そう子しに傳でんする、まの
まじき見み也。或は始はじよりあつて、いふ所ところいふまじきに、ゆさ
く、あつて、國人こくにんは、より、多おほに、あつて、寫うつく、其そのを、あつて、い
ふ、あつて、秘ひとて、事ことあり、いふ、秘ひとて、或は、いふ、世よに、知人

實よむるいふ事多し人の見る事よけよた天はる
事悪れり人れる事悪れり天はるはる事
ありといふて最たるれ聖人の教の人をよむ事
邪しく況て事代は世ををや今諸人の答る人
をよむ善人よと善く見ねる何いよて善
れれ又諸人の談て悪む人ありぬいふる悪人よ
と善く見ねる何いける悪むれり答る人
おしよめぬ悪むり談らる人よとたわりの角い
守屋大板と人といふ人ふ悪む談ふ上宮を子
と人いふ何い万人さむい答ふりや守屋の神道と

偏くさむい人よと悪人よむれを子いふれよう
ねれりおしよめぬいけり代は善者達の評判あり
又梶原といふおしよめぬいけり代は善者達の評判あり
といふ二家は善子と善人ありして世にせよといふ
判官見員是なり梶原義経は非義ありとを判
小松下い道理よありてた義ありとや義経の
さむい非義ありと事おれりといふ是皆天の
るるおしよめぬいけり代は善者達の評判あり
い天は勝天定りて人を制といふなり一旦
人れる事よといふは終は天はる事あり降と

りて人品とせり人倫とせり禮義とせり上
 づかぬとせり二旦の譽れを得ては其身の
 名は世にあらはれしむるをまじき事とせり
 世に愛せられしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり

或町人の言て人よ身代も世にあらはれしむる事とせり
 世に名をあらはれしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり世に名をあらはしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり世に名をあらはしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり

されど人の心は世にあらはれしむる事とせり
 世に名をあらはれしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり世に名をあらはしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり

人の心は世にあらはれしむる事とせり
 世に名をあらはれしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり

或人の言て人の心は世にあらはれしむる事とせり
 世に名をあらはれしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり世に名をあらはしむるは世に名をあらは
 しむる事とせり

見れ人を助くるなりあるは依怙といふを理と非と
曲ふ事といひあつたりといふや三社の託宣
と正直の一旦の依怙といふのあひ観音經と
依怙作依怙といふ神も佛も依怙といふこと
件神何と理と非と曲ふ事と志路んや見たり
非と曲ふ事と志路んや見たり私曲偏頗か
といふことといふ

或學者のいふに世の謬は陰陽師身の上と云ふは
いふにいふよりいひにふく事あるは傳ふ晋彦
西と夢と云ふれふ桑田といふ事。是る名譽の

破りて夢を占つとらるゝ巫のつゝあるは新夢
と食ふ事と云ふ神命といふことといひ晋彦
かく寝いと云ふ神の名譽は此寝の育の上膏乃
下に在りて云ふ事といふことといひ晋彦のら
寝る夢も出来れば成るゝ晋彦夢と云ふに
といふに神の田地奉行より新夢を獻じたり是
を食ふ事といふ件の新夢を呼んで云ふこと
海新夢と云ふ事といふの命といふことといひ
とて別夢と云ふことといふことといひ新夢と云
ふことといふ先国事といふことといふこと

意弘失ふもの学者といふに只今公儀にて殊罰
をうくる教ふこそ忍んで盗むより人いふはと若く今
亦も不義とは盗賊とあてし殊罰をうくるは
作はるゝ大社ある学者の不義を犯す人多くは
さやれ世よりて天理と忍んで盗むの意不義乃
念はかるものある人いふはと来さしめてね
柏れ彫ふと来と知い学問とる人の第一は
しきき潔かりといふなり

或所人け学者語て云日本は武國とて質素とさふは
かり武道の質素清浄とあるは質素なるは

武道強く驕奢な時武道弱き物也此故に神道
は質素と教へては質素は則正直のなり也文奢は
時に必し邪曲あり安とて日本は宗廟侍務を神
宮の事といふは質素を以て居ると来代乃誠と
より清殿に草蓐清供といふ来れ飯なり膳具皆本
具土器の類と用て結構義廉なる道具と神道は
い用ふ事は唐寺なり大廟とい清廟とて清浄を
本に茅葺け屋小黒木の飯なり料理の供物も
味いとはくはるなり候飭紙著して子孫を示し
よりた傳よりより是和漢なる質素清浄とは

此よりもの也日本の中あふなりては其民はこれ
なり其後ろくく過美れ風俗とありては近代
の格よへきりしや聖武天皇の時時行幸に命し給
いて日本國中れ人教と記し國郡れ境と記し人民
衣服の高下す人食物の上下美惡を録しきりて
其差別を定めし是度民に黒米の飯法より梳
ふ折麦を用ひしとの授りし今代本具は答無と
馳走とてあふも神代傳素清淨の神義とまひる
ものなりあふも今代所人をし本具振舞といひて
本れ上品と撰ひ細工の奇麗と專らして是とつと

まどあひるる人近代はそと驕りてつる本具の膳
蔭繪の梳神代の風俗といふも白木の梳麦紀の
國乃雜梳伊万利乃重梳あり神代の風俗といひ
はへしといふは

同人のいつる今代京夷中はふ所人れ家居作る居れ
る世は所といひあふる神宮の時梳より宵くる物
これ日本の人教いふしよ十倍より人毎ふ家居作事
を治すよりゆふや天下れ材木費へ夥し況や教多
き寺院其美廉言語を絶と此教は諸國のし格よ
よる材木近代はかりくありてつる此驕り貴へ

ふ木具賜ふ万倍と名のかき町人ありて神宮に草
薺^{つたひ}をひきまゐる也神代は人民皆穴^{あな}は住むといふ
今法衣の町と神の町と名は倍々横^{よこ}はばよせり
かゝる穴^{あな}は穴^{あな}は是神代の穴居れ跡^{あと}も世俗
の謂^いは客^{きやく}人^{にん}も何^{なん}もかゝる穴をれといふものにて
入居ていふも也たの穴は居る何^{なん}戸^こも穴は這て入る
ゆかりといふ此ゆゑ家の戸は穴といふといふ
今こゝをさきには跡^{あと}も穴といふはさきには跡^{あと}も
いふ跡^{あと}もさきには跡^{あと}もといふといふの質素の跡とい
ふいふして著^{あき}の穴はさきには跡^{あと}もといふといふ

ていふおれといふもさきには跡^{あと}もといふといふ
さきには跡^{あと}もさきには跡^{あと}もといふといふ
質素艱苦なる跡はさきには跡^{あと}もといふといふ
といふ跡

或人の云東北の同公鬼門^{きもん}といひて諸人忌^いむる也
いといふも町人といひていふも忌^いむる也廣く
多^{おほ}うけいさな町なされいけいさな鬼門^{きもん}といふ
西家の東い東家の西南家の北北家の南ナリ
いふありといふいけいさな町なされいけいさな東北に
神明の舎^やあり神明の墓^{かみ}といふ此ゆゑは也

乃方とせし憚^{おそ}れや佛説又陰陽家の説を
いふこと不考或書ふいつは北方へ冬と年^{とし}とて陰
の氣^{いき}なり東に春^{はる}と年^{とし}とて陽の始^{はじ}なり東北
の間に陰氣終^{はつ}て陽氣生^はむとれ取^とりて節^{ふし}
季^きありて節分除夜^{としごひ}の夜をま^またり陰を鬼^{おに}に
陽を神^{かみ}とす陰の鬼^{おに}ま^まりて陽の神^{かみ}なりあるを
鬼^{おに}の外^{ほか}とい冬乃陰退^{ひき}くなり福^{ふく}の門^{かど}とい春の陽
神^{かみ}とひ^ひつるを鬼^{おに}とい神^{かみ}といふ其理^{ことわり}二^{ふた}は
此^{こゝ}なり東北を神明の舍^やといつる神明乃位^ゐる
乃公^{この}なり鬼門^{おにかど}といふも鬼神乃位^ゐるのさ^さなり也

鬼神の位^ゐるなりとて鬼神といふも東北の間に位^ゐる
わ^わるは^はい^いは^は道理^{ことわり}とて名^なけ^けるもの也陰氣去^は
て陽氣来るい^いは^はて^てた方^{はう}なれ^れ禍^{わざはひ}多^{おほ}くて福^{ふく}と
乃理^{ことわり}也又人の惡心乃陰を多^{おほ}く改^{あらた}めて善心の陽
をひ^ひくふをさ^さわ^わる鬼門^{おにかど}をさ^さて用^{もち}ゆへさ^さ方
なれ善心乃人位^ゐるは事^{こと}わ^わる何^{なん}の^{なん}に^にい^いは^はる
らんやとたり

山人囊卷三終

